

三原市立宮浦中学校第 3 学年 社会科学習指導案

単元名：現代社会をとらえる見方や考え方

指導者：三原市立宮浦中学校 森原 行治

- 1 日 時 : 平成27年 6月16日 (火) 第4・5校時
- 2 場 所 : 3年3組教室
- 3 学年・学級 : 第3学年 3組 (33名)
- 4 単 元 名 : 現代社会をとらえる見方や考え方

(1) 単 元 観

「ルールづくり」の単元は、「法は共生のための相互尊重のルールであり、国民の生活をより豊かにするために存在するものであるということ、実感をもって認識させるために、ルールをどのようにして作るのか、ルールに基づいてどのように紛争を解決していくのかについて主体的に学習させる」ものとして位置付ける。

具体的な学習場面では、ルールづくりを通じて、上述の内容を認識させるとともに、法が多様な人々が共生するための相互尊重のルールであり、守ることの大切さを理解させることを目指す。

本教材の特徴は、生徒に身近に感じられる紛争状況を設定し、この紛争状況を解決するための解決策（ルール）づくりを体験的に行わせることである。

解決策（ルール）を体験的に作成する過程においては、生徒がそれぞれ合理的な意見を持ち、生徒間の討論を経た合意形成に基づいて紛争を解決することが必要となるが、こうした体験的な作業は合意形成や建設的な批判の能力の育成にもつながると考える。

また、生徒の身近な紛争状況を設定することにより、作成したルールもまた身近なものであると意識付けることが可能となるし、作成体験を通じて、自分たちで合意したルールを守るという規範意識の涵養、状況の変化に応じてルールを作り変えるといった、主体的なルールを作成し利用するという意識を育む教育にもつながると考える。

(2) 生 徒 観 (調査結果からみる課題)

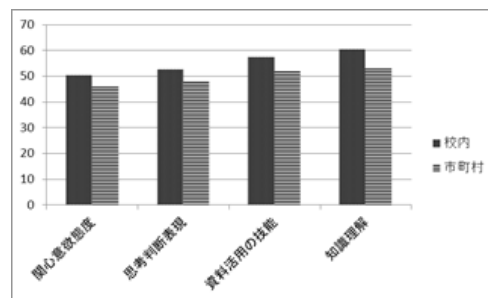
右のグラフは、現3年生が1月に受けた標準学力調査
社会科の観点別通過率である。

第3観点「資料活用の技能」第4観点「知識理解」は一定の成果を示していると考えられる。しかし、第1観点「関心意欲態度」第2観点「思考・判断・表現」に課題があり、その改善にむけて、「課題解決学習」を活用したい。

第3学年の各学級では、個人や小集団での「一問一答」式の設問についてはグループとして課題に取り組んでいる。しかし、各自の意見をまとめる、それらの意見を交流することには苦手意識もあり、低調である。

そこで、「課題解決学習」を行い、交流学习課題の設定および解決に至る過程での体験的な学習活動によって、「思考力・判断力」、「表現力」の向上をめざしたい。

さらにこれらの活動によってより一層の「関心意欲態度」の向上につなげたい。



(3) 指導観(指導改善のポイント)

本時を、「ルールづくり」の単元のまとめとして位置付けている。

既習事項として、「法は共生のための相互尊重のルールであり、国民の生活をより豊かにするために存在するものであるということ」。さらに、「ルール」について「対立から合意へ、効率と公正を用いること」を学んでいる。

このことを、体験的な学習活動を通して実感をもって認識させるために、次のことに留意し、指導改善を図る。本教材は、生徒に身近に感じられる紛争状況を設定し、この紛争状況を解決するための解決策(ルール)づくりを体験的に行わせることに特色がある。その学習活動の過程においては、

2-1 段階 要求(対立)項目と、その根拠を明らかにする活動

- ① 生徒がそれぞれ合理的な意見を持つこと(書けること)。
- ② 小集団の中で意見を発表すること。
- ③ 小集団の中で生徒間の討論を行うこと。

2-2 段階 要求の異なる者(対立しあう者)の話し合いから、ルールを作る(合意しあう)活動

- ① 対立するものがそれぞれ自らの要求を説明する。
- ② 他者の意見を聞き要求を理解する。
- ③ ルール作り(合意形成)のため討論する。

まとめ段階

- ルール(合意)を再検討する。

これらの諸活動には、生徒個人が集団内へ働きかけることのできる「コミュニケーション力」が不可欠であり、こうした体験的な作業は合意形成や建設的な批判の能力の育成にもつながると考える。

5 単元の目標と評価規準

単元の目標

- ・物事の決定の仕方やきまりなどの社会生活に見られる事例について、それらの意義を考えることができる。
- ・対立と合意、効率と公正といった見方や考え方を用いて、現代社会をとらえることができる。
- ・様々な社会集団の一員として、社会契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について気付くことができる。

単元の評価基準

社会的な事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・ 判断・表現	資料活用の技能	社会的な事象についての 知識・理解
<p>・様々な社会集団の一員として、家族、学校、地域の自治会、職場など様々な集団における物事の決定の仕方、きまりの意義に対する関心を高め、それを守ることの意味を意欲的に追究している。</p>	<p>・具体的事例を基に、物事の決定の仕方、決定したことを守ることのような意味があるのかについて、対立と合意、効率と公正といった見方や考え方を用いて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>・物事の決定の仕方、きまりの意義に関する具体的な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p>	<p>・人間は社会的な存在であり、よりよい社会生活を営んでいくためにはきまりや取り決めが必要であることを理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>・対立が生じた場合、互いの利益が得られるよう合意に至る努力がなされ、合意の妥当性を判断する際に効率と公正の概念が必要であることを理解し、その知識を身に付けている。</p>

6 指導と評価の計画

全3時間 (本時は2・3/3)

次	学習内容 (時数)	主な学習内容				資質・能力の評価	
		関	考	表	知		評価規準
1	ルールは何のためにあるのか 課題の設定	◎				・社会生活におけるきまりの意義に対する関心を高め、意欲的に追求している。 ◎ ・人間は社会的な存在であり、よりよい社会を営んでいくためにはきまりや取り決めが必要であることを理解している。	・法が多様な人々が共生するための相互尊重のルールであり、守ることの大切さを理解させる
2	マンションのルールを作ろう その1 情報の収集 整理・分析 まとめ・創造・表現	◎				・対立と合意、効率と公正などのフレームを用いて社会集団の一員としての問題解決をより良いものになろうとしている。 ・問題の解決にあたって、対立と合意、効率と公正などの視点から考察し、その過程や結果を表現している。	・体験的な作業は合意形成や建設的な批判の能力の育成する
3	マンションのルールを作ろう その2 情報の収集 整理・分析 まとめ・創造・表現 ふりかえり			◎		・作成体験を通じて、自分たちで合意したルールを守るという規範意識の涵養	

7 本单元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

- 根拠を明らかにして、意見を述べる (書く)
- 他者の意見を受け止める。(理解する)
- 意見交流を通して、新たな意見を創造する。(解決策・ルールを作る。)

8 参考文献 等

『法やルールって、なぜ必要なんだろう?』 ～私たちと法～ 法教育推進協議会 (法務省) 発行

8 本時の展開 その1

(1) 本時の目標

ルールの機能と望ましいルールの要件は何か。

(2) 観点別評価規準

- ・社会生活におけるきまりの意義に対する関心を高め、意欲的に追求している。(関心・意欲・態度)
- ・人間は社会的な存在であり、よりよい社会を営んでいくためにはきまりや取り決めが必要であることを理解している。(知識理解)

評価方法：生徒観察・ワークシート・発表

(3) 準備物

ワークシート

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項及び評価 (■) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)
導入	身の回りにはルールがあることを確認する。 【本時の目標】 ルールの機能と望ましいルールの要件は何か	身の回りのルールの存在
	ワークシート1-1に書く。以下の発問について、ワークシート1-2に書く。 ルールは何のためにあるのか。 ①秩序を守らないと安全に暮らしていけないから (秩序維持機能) ②紛争を解決しなければ社会が安定しないから (紛争解決機能) といったルールの機能について説明する。	ルールの正当性を示す根拠 (社会統制機能・紛争解決機能)・宿題提出 ・答えられない場合は教師の方で例示する。 ・授業時間の関係上左記内容は事前にカード等 に書いておくとうい。 社会統制機能といった言葉を挙げて説明する 必要はない。
展開	この二つの機能の実現を目指してルールは作られることを確認し、以下のような目的で作成されたルールの適否について検討する。 ①授業中は静かにする ②部活はみんなで頑張りましょう ③みんなで掃除をきちんとやろう 前述の目的に沿って作った以下に示すルールを ☆「受け入れることはできるか、できないか。」 (そう選んだ)理由は何か。	教員は、①～③を事前にカードに書いておく。 生徒は、ワークシート1-3を書く。 ① 授業中いつもうるさく勉強ができないので、「授業開始のベルが鳴ったら50分の授業のうち40分間目を閉じる」というルールを教師が作った。 ② キャプテンは部員の意見をまったく聞かず、「部内の雰囲気や乱した部員は、キャプテンからどんな制裁でも受けなければならない」というルールを作った。 ③ 男子が掃除を、いつもさぼっていて、男子

<p>★「受け入れられない」との答えの理由として、</p> <p>① 授業中、静かにするために 40 分間目を閉じるという事は、結果として授業時間を大幅に減らすことにつながり、授業時間の確保が十分できないといった点で適切なルールとは言えない。(手段の相当性の欠如)</p> <p>② 雰囲気乱すとはどういうことかはっきりしない (明確性の欠如) キャプテンが部員の意見をまったく聞かないのは公平でない。(手続の公平性の欠如)</p> <p>③ 女子だけが掃除をしないのは公平ではない。 (平等性の欠如)</p> <p>③について、「受け入れられる」との答えが出される場合は、以下の発問を行う。 「立場を入れ替えてもルールを受け入れることはできるか。」</p> <p>「受け入れられる」ルールにするには、どうすればよいただろうか。</p>	<p>と女子がけんかをしているので、「掃除は男子生徒のみとする」というルールを作った。</p> <p>ルールが適正となる要件 (手段の相当性・明確性・平等性・手続の公平性)</p> <p>③男子⇔女子 の立場の入れ替えを行う。</p> <p>①授業開始のベルと同時に 1 分程度目を閉じて、静かになってから授業を開始するなど。 ②みんなの意見を聞いて決める、規定の意味をはっきりさせる、キャプテンの独裁にしないなど。 ③女子も平等に掃除をするなど。</p>
--	--

8 本時の展開 その2-1

(1) 本時の目標

マンションの住人の対立する要求を、効率・公正をフレームに合意（新たなルール）を成立させる。

(2) 観点別評価規準

- ・対立と合意、効率と公正などのフレームを用いて社会集団の一員としての問題解決をより良いものに行おうとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・問題の解決にあたって、対立と合意、効率と公正などの視点から考察し、その過程や結果を表現している。 (思考・判断・表現)

評価方法：生徒観察・ワークシート・発表

(3) 準備物

ワークシート

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項及び評価 (■) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)
導入	<p>・前時の授業内容の内、「どのようなルールであれば、受け入れることができるのか」について確認する。</p> <p>【本時の目標】 マンションの紛争を解決するルールを作ろう ① マンションの住人の要求を、それぞれの立場にそって整理する。</p>	
展開	<p>日常生活における紛争 あるマンションで、ペットの飼育についての問題が生じている。まず、問題の状況を確認しよう。</p> <p>課題の設定 情報の収集</p> <p>クラスを6班に分ける。以下の「マンションの図」を示す。</p> <p>ペットの飼育について、それぞれの立場を確認しよう。 A～Fの立場に班分けを行い、自分たちの状況（事実）、事実に基づく主張（自分の希望する状況）、主張の理由（それを希望する理由）について、各班ごとに話し合い、ワークシート2-1に記入する。</p> <p>生徒から予想される回答は以下のとおり。</p> <p>整理・分析</p> <p>A 事実：チワワと一緒に楽しく遊んでいる。 主張：ペットの飼育を認めてほしい。 理由：チワワを生きがいにしている、生活に欠かせない。</p>	<p>以下の問題状況を範読する。</p> <p>いちようさんは、ペットのチワワと一緒に暮らしている。マンションでは、規則でペット禁止のルールを決めているところもありますが、いちようさんの住んでいるマンションでは、ペット飼育が禁止されていない。同じように猫や犬を飼っている世帯が何軒かある。しかし、マンションに住む人たちの中には、犬のほえる声がうるさいし、フンの悪臭もひどい。ペットの飼育は迷惑なので、何とかしてほしいと要望が出されている。</p> <p>さて、どのように問題を解決すればいいのか。</p> <p>・事前に「マンションの図」をクラス全員に見えるように模造紙等で作成しておくといよい。 資料1</p>

<p>B 事実：猫のフンがくさい。 主張：猫の飼育を禁止してほしい。 理由：フンの臭いがしない環境にしてほしい。</p> <p>C 事実：犬のフンの処理はしっかりしているが、朝、犬がほえる。 主張：犬の飼育を禁止しないでほしい。 理由：迷惑をかけているのは分かるが、仮に飼育を禁止しても、今飼っている犬を捨てるわけにはいかない。しつけをきちんとするように頑張る。</p> <p>D 事実：Cの家の犬はうるさい。 主張：犬の飼育を禁止してほしい。 理由：朝、犬がほえるとうるさい。子どもが怖がっている。</p> <p>E 事実：チワワの鳴き声がうるさい。 主張：ペットの飼育を禁止してほしい。 理由：安眠妨害である。</p> <p>なお、Fは中立的な立場で答えを考え、第3時は司会の役割を担う。 各班がワークシートの内容（事実・主張・理由）を発表する。生徒は、各班が発表した内容をワークシート2-2にメモする。ワークシートにメモした内容を踏まえて、各班に対して質問をする。 紛争解決のためのルールづくり それぞれの班で、解決策を作成してみよう。 それぞれの立場に立った解決策（ルール）について各班で議論する。 ワークシート2-3に記入する。</p>	<p>・左記A～Eに示すような意見が出ない場合は教師の方で意見を例示する。</p>
<p>まとめ</p> <p>紛争解決のためのルールづくり それぞれの班で、解決策を作成してみよう。 それぞれの立場に立った解決策（ルール）について各班で議論する。 ワークシート2-3に記入する</p> <p>○ふり返り問題 まとめ・創造・表現</p> <p>○自己評価 ふりかえり</p> <p>○宿題の提示（必ず宿題を出す）</p>	<p>・罰則を設けることのみに着目させない。 解決策（ルール）はいく通りもあることを意識付けるようにする。</p>

8 本時の展開 その2-2

(1) 本時の目標

マンションの住人の対立する要求を、効率・公正をフレームに合意（新たなルール）を成立させる。

(2) 観点別評価規準

- ・対立と合意、効率と公正などのフレームを用いて社会集団の一員としての問題解決をより良いものにしてしようとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・問題の解決にあたって、対立と合意、効率と公正などの視点から考察し、その過程や結果を表現している。 (思考・判断・表現)

評価方法：生徒観察・ワークシート・発表

(3) 準備物

ワークシート

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項及び評価 (■) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)
導入	<p>【本時の目標】 マンションのルールを作ろう ② (ルールについて評価し討論しよう) マンションの住人の対立する要求を、効率・公正をフレームに合意（新たなルール）を成立させる。</p> <p>・解決策を考えるための視点</p> <p>①手段の相当性</p> <p>②明確性</p> <p>③平等性</p> <p>④手続の公平性</p> <p>課題の設定</p>	
展開	<p>第2時に作成した解決策（ルール）について評価を行う。</p> <p>今日は、A～Eの班が作成した解決策について、まず自分で評価してみよう。</p> <p>情報収集</p> <p>それでは、グループで、それぞれの立場が作成した解決策について確認し、どのような解決策が望ましいか議論してみよう。</p> <p>それぞれの立場の解決策をワークシート3-1に記入する。</p> <p>Fの生徒は、司会進行シートに沿って司会・討論を進める。それぞれの立場の解決策（ルール）及びその理由を発表し合い、また、その主張に対して質問を受ける。</p> <p>その後、グループとしての解決策をまとめてワークシート3-2に記入する。</p> <p>整理・分析</p>	<p>その後、A～Eの立場をばらしたグループを編成し、考える視点シートに沿って解決策（ルール）を検討させる。その間にFの生徒は司会の役割を担うので、教師は、Fの生徒に対して、司会進行シートに沿って、グループ内の討論の進め方について指示する。</p> <p>・Fへの指示終了後、机間指導を行い、適宜アドバイスする。</p>

<p>なお、解決策（ルール）を議論する際の論点は以下のとおり。</p> <p>①ペットの鳴き声は、住民の受忍限度（犬のほえる声の大きさ、時間帯を考慮）を超えるものなのかどうか。</p> <p>②ペットのフンの悪臭は、住民の受忍限度を超えるものなのかどうか。</p> <p>③ペット禁止をルール化するとして、以前から飼っていたペットをどうするのか。</p> <p>④飼育を認めるとして、ペットの種類を制限するかどうか。</p> <p>⑤飼育を認めるとして、フンの処理を飼主がしなくてよいのか。</p> <p>⑥ペットの飼育を認めるとして、ペットに関わる費用負担（消臭剤・しつけにかかる費用等）を誰が負担するのか。</p>	<p>生徒からの予想される解決策（ルール）は以下のとおり。</p> <p>A ペットの飼育を認める。ただし、消臭剤等の費用はペットの飼主が負担する。また、飼主はペットのしつけを徹底する。</p> <p>B ペットの飼育を原則禁止にする。ただし、希望する人に対して申請書を出させ、その都度、自治会で審議する。以前から飼っていたペットは特別に許可する（しつけは徹底する）。</p> <p>・不合理な回答（例えば「ペットを飼っている住人にマンションから出て行ってもらおう」「迷惑している人たちが、マンションから出て行く」等）は教師の方から、理由を明示し避ける。</p>
<p>それでは、各グループの解決策を発表してみよう。各グループの決定した解決策を発表させる。</p> <p>まとめ・創造・表現</p> <p>それぞれのグループの解決策を評価してみよう。</p> <p>第1時の、ルールが適正となる要件について確認しながら、ワークシート4に記入する。</p> <p>○ふり返り問題 ふりかえり</p> <p>○自己評価</p> <p>○宿題の提示（必ず宿題を出す）</p>	<p>・評価する理由をしっかりと書くよう机間指導する。</p> <p>「理由の適切性」も大事なポイントなので、生徒が考えるには難しいようなら教師の方で回答する。</p> <p>「マンションの問題を解決するという目的を実現するために適切な手段ですか」→個人の自由を、必要以上に制限していないか等について考えさせる。</p>